

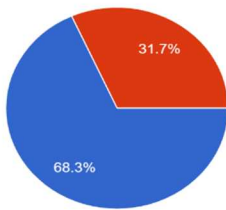
支援部だより

巡回相談等アンケートまとめ

県立大島特別支援学校
令和6年 3月18日
NO.2
文責 支援部 渋谷

本年度も残り少なくなってきました。先生方におかれましては、お忙しい中にもかかわらず、巡回相談等で資料の作成や当日の対応等ご協力いただきありがとうございました。2月に巡回相談等のアンケートをお願いしたところ多数のご回答いただきました。ご記入いただいたものを一部原文のまま記載します。今後の指導の参考になれば幸いです。次年度も先生方からいただいたご意見やニーズに応じて、センター的機能を発揮できるように努めて参ります。今後ともご理解ご協力の程よろしく申し上げます。1年間ありがとうございました。

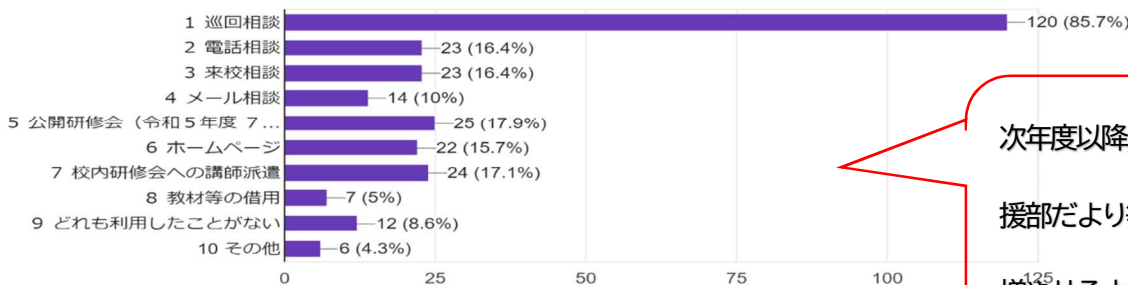
I 子どもの実態を理解したり整理したりするために役に立ちましたか。
123件の回答



- 1 とても役に立った
- 2 役に立った
- 3 どちらかといえば役に立たなかった
- 4 役に立たなかった

他の項目でも「役立った」とのご回答をいただいています！
ありがとうございます。

VI 本校のセンター的機能の取組の中から、利用したことがあるものをすべて全て教えてください。
140件の回答



次年度以降、ホームページ、支援部だより等での情報発信を増やせるようにします。

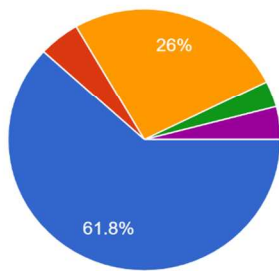
VII 巡回相談後に校内の支援体制や職員の意識について、変容点等あればお書きください。 77件の回答(一部抜粋)

- ・相談内容を職員全体で共通理解することで、他の学級で似た傾向がある児童への支援にもつなげることができた。
- ・生徒及び保護者への細やかな働きかけの重要性を改めて認識した。卒業後の生徒の様子への関心が高まった。
- ・助言内容が担任任せにならないよう、提案された教具等をコーディネーターや支援部で作成しました(九九カードやカタカナ表)。また、頂いた資料を回覧し、意識の向上を図りました。
- ・知能検査を受けるかどうかの判断が難しかったが、相談したことで担任と協力して保護者に検査を勧めることができた。またどのように工夫して授業をやっていけばよいかについて情報共有したので、特別支援の視点に立った授業づくりをしようと意識する職員が増えたように感じる。
- ・なんとなくわかっていることも、アドバイスを頂くと、納得できる部分があると思います。相談をした担任の先生から全体に共通理解することで、全職員で支援が必要な生徒を見て、支援を考えていかなければいけないという意識が高まったと思います。
- ・児童のよさに目を向け、ストロングポイントを生かした指導を意識するようになった。
- ・巡回相談で教えていただいたことを元に、全校生徒の合理的配慮・支援のシートを作成し、全職員で確認することができた。

アンケートではたくさんのご意見ご感想をいただきました。個人的には巡回相談の短い時間で、ピンポイントの支援を提案するのは難しいと感じています。いくつか提案させていただく中で、「すぐに手軽にできそうな支援(の方法)」というものが分かる、もしくはヒントになればいいなと思っています。力不足で物足りない面もあったかと思いますが、先生方の一助となれたことを嬉しく感じました。

IV 巡回相談員から提案された助言等の情報はどのように共有されていますか。

123件の回答



- 1 全職員との共有
- 2 管理職との共有
- 3 児童生徒と関係する職員との共有 (担任及び学年部や教科担任)
- 4 担任との共有
- 5 その他

学級担任だけでなく、学年や学校全体で子どもを支援しているという観点は大切だと思います

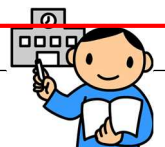
IX 現在、園・学校等で特別支援教育について課題に思っていることがあれば教えてください。95件の回答(一部抜粋)

- ・保護者や地域の理解。教職員によって意識の差が大きい。特別支援教育や特別支援学級は特別であるという意識がまだある。
- ・年々少人数の学校でも配慮の必要な児童の割合が多くなってきている。職員がギリギリなので支援員を村へ要望している。
- ・通常学級において、支援を要する生徒が多い(クラスの約半数)対応について
- ・特別支援を必要としている生徒に対して、できるだけ丁寧に対応するよう努めているが、教員の負担も大きくなり難しいことがある。
- ・小規模校、複式学級での支援の難しさを実感しています。今後も取り組んでいきたいと思えます。
- ・支援する生徒に対し職員数が少ない。支援員がいれば助かるとの声が職員から聞かれる。また、支援を必要とする生徒の保護者からの理解が得られない(発達しょうがいではない、支援は必要ないと考えている保護者)場合、対応が難しい。
- ・学級の中でも学習のレベルが違ったり進路が違ったりするので、教育課程をどのようにすればよいか困っている。また、来年度は1クラスの人数が最大数になるので、一人の職員で対応できるかが不安である。
- ・保護者の方との温度差がある。学校としては療育等につなぎたいが、保護者の方からなかなか同意を得られない。学校以外の支援に広げてきたいときの手立てが知りたい。
- ・中学校における特別支援教育に対する考えがまだまだ不十分。どうしても型にはめるとか、全体でそろえるという考えになりがち。一人一人の特性を考え、寄り添えるように指導していきたい。
- ・職員間での温度差がある。多忙な中で、意見交換や研修を組むことが難しい。結果、チームとして動くことがなかなかできず、各職員が個で対応しがち。
- ・個別の指導計画の効果的な活用方法(作りっぱなしになっている)

学校等での課題はまだまだあるかと思えます。職員間の共通理解と実践、保護者への理解・啓発、教育課程、就学相談...と多岐にわたります。担任が一人で解決しようとするの大変ですね。チームで課題解決に取り組めるよう、管理職、コーディネーターを中心に、校内支援体制作りにも臨めるといいですね。担任の不安を共有し、知恵を出し合える場になることを目指しましょう！

今回のアンケート結果については、各市町村教育委員会にも全体、市町村ごとでデータをお渡ししてあります。詳細を知りたい方はお声掛けください。

★ あとがき ★



- ☆ 年度当初、巡回相談等で参観させていただいた先生方の、授業におけるアイデアや実践例などを支援部だよりなどで紹介させていただければ...と計画していたのですが、力量不足でご紹介までできませんでした。ご協力いただいた先生方にはこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。
- ☆ 来年度に向けて、異動対象の先生方もいっしょに、引継ぎを丁寧に準備されている頃かと思えます。人が変わっても、場所が変わってもその子に応じた支援を提供できるように、子どもたちの「できた!」「わかった!」がこれからも増えていくように、特別支援学校も微力ながらお手伝いできればと考えます。電話、メール、オンラインなどいつでもご相談ください。

